新顔冬野菜 産地事例集

令和７年（2025年）３月
北海道農政部生産振興局農産振興課

目　次

冬季無加温栽培

① **こまつな**　伊達市農業協同組合
ほうれんそう・湘南野菜部会冬野菜グループ（伊達市）… 1

② **ちぢみほうれんそう（寒締め）**
びらとり農業協同組合
びらとり野菜生産振興会ホウレン草部会（平取町）…… 5

③ **こまつな**　新函館農業協同組合
北斗市野菜生産出荷組合
ほうれんそう・こまつな部会（北斗市）…… 9

④ **リーフレタス・サニーレタス**
新函館農業協同組合
北斗市野菜生産出荷組合レタス部会（北斗市）……13

⑤ **ちぢみほうれんそう（寒締め）・ケール**
（株）MORIYA（旭川市）……17

⑥ **ちぢみほうれんそう（寒締め）・ケール**
馬場農園（旭川市）……21

⑦ **各種葉菜類**
（株）百商屋（美深町）……25

⑧ **ちぢみほうれんそう（寒締め・冷凍加工用）**
きたみらい農業協同組合（北見市）……29

伏せ込みアスパラガス

① **比布町農業協同組合（比布町）**……33

② **美幌町農業同組合（美幌町）**……37

はじめに

近年、北海道立総合研究機構農業研究本部の研究成果により、無加温パイプハウスを用いた野菜の周年生産技術が取りまとめられました。この技術の導入により、冬期間の燃料使用量の削減や、燃料価格の高騰による農家経営への影響の軽減が図られるとともに、環境への負荷が低減されるほか、施設の稼働率を高めることによる収益性の向上に加え、通年での雇用が可能となることや、さらには、道内の消費者にとって、一年を通して地場産の新鮮な野菜を手に入れられるといった成果が期待されているところです。

道では、こうした冬季無加温栽培により生産された野菜や、高価格での取引が期待される伏せ込みアスパラガスなどを「新顔冬野菜」として、生産と需要の拡大を図るため、令和６年度より更なる生産拡大と認知度の向上に取り組んでおり、このたび、冬季無加温栽培などの生産拡大や新たに栽培を目指す地域への支援に向けて、すでに取り組んでいる産地や生産者の実例を「新顔冬野菜産地事例集」として取りまとめました。

この事例集は、生産現場における技術資料として活用いただくとともに、「新顔冬野菜」の導入や推進を図るにあたって、農業者や地域の関係者の参考資料として活用いただければ幸いです。

本事例集の活用により、農閑期における収益の確保や、地域の特産物として付加価値向上、さらには無加温栽培により燃料使用量を低減することでゼロカーボン北海道への貢献などが図られることを期待しています。

令和７年（2025 年）３月

農産振興課園芸担当課長　勝　藤　　彰

こまつな

伊達市農業協同組合
ほうれんそう・湘南野菜部会冬野菜グループ
【生産者事例：尾川農園（伊達市）】

産地や産品の特徴

- 温暖な気候を生かした、多種多様な野菜の産地。
- こまつなの特徴：栄養価が高く、クセがないので幅広い料理に使える。
  耐寒性が高く、寒さにあたると甘みが増す。
- 個選共販。FG 包装。

耕種概要

- 経営形態：施設野菜専業
- ハウス面積（経営全体）：間口 6.0m ×奥行 50m × 4 棟、
  間口 7.2m ×奥行 50m × 2 棟（うち冬のこまつなは 4 棟作付）
- 土質：火山性黒ボク土
- 施肥：N10、P10、K10kg/10a）
- 品種：いなむら、はまつづき他
- 畦幅、株間（10a 当たり株数）
  20cm × 20cm、 2 株 / 穴、50,000 株 /10a
- 穴開きマルチ使用（透明）
- 前作：ちんげんさい

収量や品質の目標

- 収量：1,200kg/10a
- 品質：しおれや変色などなく、棚持ちのいいもの。

栽培カレンダー

こまつな

月	8			9			10			11			12			1			2			3		
旬	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
作業							●	┈┈	┈┈	●														
										▲	┈┈	▲												
																□	┈┈	┈┈	┈┈	┈┈	□			

は種：●、定植：▲、収穫：□

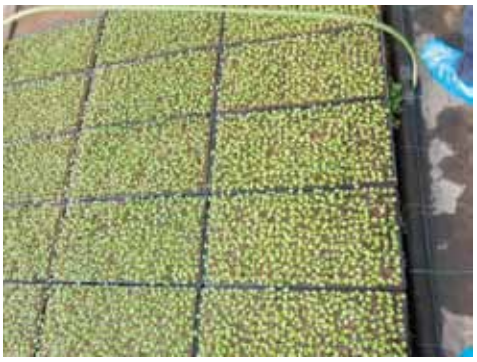
ハウスの仕様

育苗ハウス

ハウス外観
天張り：農 PO（0.1mm）

内張１重
カーテン:農 PO（0.75mm）

生育状況



育苗：11 月上旬

定植：11 月中旬

定植：11 月中旬

収穫：１月下旬

病害虫対策

- 病害：特になし
- 虫害：アブラムシ類、ヨトウガ、ナメクジ
- 耕種的防除：窒素過剰に注意
- 化学的防除：アブラムシ類中心に、薬剤防除。

栽培や作業のポイント

【育苗】

- は種はセルトレイ（200 穴）を使用し、発芽を安定化。また、穴あきマルチを使用することで、収穫時の土砂混入防止につなげている。
- 育苗している理由は、ハウス６棟だけで経営しており、できるだけハウスを有効活用したい考えから。冬期間のこまつなの他、春から秋は主にちんげんさいを作付けしている。
- 育苗には電熱マットを使用。夜間 14℃、15 時半にトンネルを閉めてスイッチを入れ、朝８時半に開けてスイッチを切る。育苗床のトンネル被覆には、気泡の入った PO と布団資材を使用し電気代を抑えている。

【本圃】

- 保温は、１重カーテンの他、不織布によるトンネル。１～２月はしばれていると収穫できないので、収穫するハウスだけ布団資材を使用。
- 収穫作業は、収穫できる時間が限られるため、計画的な作業を心がける。

【共通】

- 冬期間は、ハウス内部が過湿になりやすいため、かん水には特に気を配りながら管理する。

冬の栽培に取り組んだ経過や考え方

【産地】

- 農協では、15 年ほど前、ホクレンの掲げた「国産野菜統一宣言」にタイアップし、葉物野菜など、伊達産の冬野菜の販売を推進。
- 平成 26 年度より、冬野菜と夏秋野菜（トマトなど）の生産振興を併せて推進するため、ハウス整備に対する補助事業を関係機関（市 1/2、農協 1/4）で実施。本事業を契機に冬野菜（加温を含む）の作付けが拡大。
- 伊達は色々なものを作れるので、伊達に行けば野菜が全部そろうということを売りにしたい。

冬の栽培に取り組んだ経過や考え方

【生産者】

- 伊達市の気候を活かして、安定経営確立を目指し冬野菜を取り入れた。
- こまつなは、比較的栽培しやすく、品質も安定している。
- 道の駅などの直売所でも販売することができた。

消費者ニーズや販売先等

- 消費者の地産地消への意識は高まっていると感じる。
- 「冬でも道産を」と思ってくれる道民の期待に応えたい。
- JA を通じ、札幌や室蘭市場への出荷。その他一部、道の駅直売所など。

その他

- 産地で冬期間に出荷している品目（JA 取扱品目）
  ほうれんそう（寒締めではない）、レタス、リーフレタス、わさび菜、しゅんぎく、ミニはくさいなど。
  うち、無加温の品目は、ほうれんそう、わさび菜、一部のこまつな。
  加温する場合でも、凍結しないための２～３℃の設定としている。
- 農業資材費の価格が上昇しているため、収益性が厳しくなっている。
- 安価な府県産（露地もの）との競合が課題。

問い合わせ先

伊達市農業協同組合　営農生産部生産販売課青果係

〒052-0031 伊達市館山町 139-1　TEL：0142-23-2221（代）

ちぢみほうれんそう（寒締め）

びらとり農業協同組合
びらとり野菜生産振興会ホウレン草部会
【生産者事例：部会長　坂下 晋章 氏（平取町）】

産地や産品の特徴

- 「ニシパの恋人」トマトの後作として定着。
- 糖度８度以上。全く苦み無し。生食も OK。しゃぶしゃぶがおすすめ。
- 個選共販。FG 包装。

耕種概要

- 経営形態：施設野菜＋水稲
- ハウス面積（ほうれんそう）：間口 7.4m ×奥行 50m ×７棟
- 土質：褐色低地土
- 施肥：トマトの残肥のみ（基準：N9、P15、K8kg/10a）
- 品種：寒味・極、冬霧７、朝霧、雪美菜 02
- 畦幅、株間（10a 当たり株数）
  30 × 5 cm ～ 10cm（33,333 ～ 66,666 株 /10a）
- は種方法：種まき機ごんべえ使用（間引きあり）
- 前作：大玉トマト

収量や品質の目標

- 基準収量：12 月下旬～２月下旬に約 1,000kg/10a
- 品質目標：糖度８度以上

栽培カレンダー

ちぢみほうれんそう（寒締め）

月	8			9			10			11			12			1			2			3		
旬	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
作業					●……		●…							□……							□			

は種：●、収穫：□

ハウスの仕様

ハウス外観
天張り：農 PO（0.15mm）

内張 1 重
カーテン：農 PO（0.1mm）

生育状況

11 月上旬

11 月上旬

出荷前

収穫作業

病害虫対策

- 病害：べと病
- 虫害：アブラムシ類、ケナガコナダニ、ヨトウガ
- 耕種的防除：抵抗性品種利用、雑草防除
- 化学的防除：発生予察に基づく、初期防除の徹底

栽培や作業のポイント

【は種前のほ場づくり】

- トマトの後作では、深耕ロータリーによる 40cm 耕起。
- は種前に十分なかん水（地表面下 20cm）を行う。また、は種深度は２～３cm。
- は種時の鎮圧は、ほ場に合わせて実施を判断。

【は種時期】

- 発芽適温（15 ～ 20℃）を確保するため、９月 20 日前後～ 10 月第１週までには種する。

【寒締め作業】

- 寒締め工程に入る前までに出荷規格（本葉６～８枚、葉長 20cm 程度）までに生育させる。
- 寒締め開始から３日目までは、日中ハウスを開放し、夜間は閉める。
- 寒締め４～６日目は、夜もハウスを開放するが、夜温 -5℃以下や強風時は、閉める。
- ７日目以降はハウスを開放するが、夜温 -10℃以下や雪がハウスに入る場合は、閉める。

【収穫作業】

- 収穫前日にハウスを閉め、凍結を緩和する。
- 収穫は、茎折れ防止のため、午前 10 時以降に行う。
- 専用鎌を使用し、根元から刈り取り、コンテナなどの上に置き、茎葉に付着している土砂を除去する。
- 調製は、不要な外葉を除去し、袋詰めして。出荷箱に梱包し、出荷する。

冬の栽培に取り組んだ経過や考え方

- 冬野菜導入のきっかけは、所得向上と通年雇用。
- 寒締めほうれんそう導入以前、外国人技能実習生は、冬場は帰ってまた新しい人という形で、入れ替わりで来ていた。人選がなかなか難しくなってきて、２年、３年と同じ人に来てもらうことになってきた時に、冬場に仕事がないと困るということになり、通年雇用が必要となった。寒締めほうれんそうの導入により、雇用は順調となった。
- 平成 20 年頃に２～３戸で始まったのが年々増え、現在はトマト作付生産者のうち、約４割が作付けしている。

消費者ニーズや販売先等

- 販売先は、市場取引で主に札幌を中心とした道内スーパーマーケットなど。
- 札幌での対面販売では、平取の寒締めを待っていたというリピーターの方からの声を多くいただいている。

その他

- 物価高騰の中、農産物の価格はなかなか上がらず厳しい状況。
- 本州産の安価な露地の葉物との競合が課題。
- 同じちぢみほうれんそうでも、北海道の寒締めは府県産とは異なるものであり、差別化を図って、府県への販売も検討していきたい。

問い合わせ先

びらとり農業協同組合　営農生産部青果課

〒 055-0193 沙流郡平取町本町 40 番地１　TEL：01457-2-2020

こまつな

新函館農業協同組合
北斗市野菜生産出荷組合
ほうれんそう・こまつな部会
【生産者事例：（株）畠山ファーム（北斗市）】

産地や産品の特徴

- ねぎやトマトのハウスの輪作作物として定着。
- こまつなの特徴：栄養価が高く、クセがないので幅広い料理に使える。耐寒性が高く、寒さにあたると甘みが増す。
- 個選共販。FG 包装。

耕種概要

- 経営形態：水稲＋露地・施設野菜
- ハウス面積（こまつな）：間口 7.2m ×奥行 35m × 13 棟、間口 5.4m ×奥行 70m × 5 棟、間口 5.4m ×奥行 35m × 3 棟
- 土質：泥炭土
- 施肥：N 2 ～ 3kg/10a（土壌診断結果による施肥を実施）
  （地域慣行：N12、P10、K12kg/10a）
- 品種：さくらぎ他
- 畦幅、株間（10a 当たり株数）：14cm × 5 cm（142,857 株 /10a）
- は種：種まき機ごんべえテイラーけん引タイプ（6 条）使用
- 前作：ねぎ

収量や品質の目標

- 収量：1,800kg/10a
- 品質：しおれが無いもの。腐敗、変色していないもの。
  病害、害虫、傷害のないもの。葉折れ、茎折れの少ないもの。

栽培カレンダー

こまつな

月	8			9			10			11			12			1			2			3		
旬	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
作業							●	┈	●															
										□	┈	┈	┈	┈	┈	┈	┈	┈	┈	┈	□			

は種：●、収穫：□

ハウスの仕様

ハウス外観　天張り：農 PO（0.1mm）

生育状況

生育途中のこまつな（11 月下旬）

収穫中のこまつな（11 月下旬）

病害虫対策

- 病害：特になし
- 虫害：コナガ、ナメクジ
  ※ナメクジはハウス内でほ場の外縁部を食害するが、防除経費を考慮し特段の対策はしていない（食害株は出荷しない。）。
- 化学的防除：コナガを中心に薬剤防除。
- 耕種的防除：雑草処理

栽培や作業のポイント

- 低温で草丈が伸びなくなったらトンネルで不織布をかける。トンネルを設置できるよう中央の通路を広めにとっている。
- べた掛けだと露が付いて汚れ、調製作業に時間がかかるため、トンネルとしている。
- １～２月はしばれがきつく、茎葉が凍ると午前中の収穫作業が出来ないため、１月中旬～２月上旬はポータブルストーブを設置して凍結を防ぐことがある。
- 後作のねぎの定植予定に合わせてこまつなの栽培を行っている。
- ほうれんそうより切ったときの水気が多いため、FG 包装の際はふき取りに注意している。

トンネル用アーチ

冬の栽培に取り組んだ経過や考え方

【産地】

- 北斗地区はねぎとトマトが主体であり、ハウスの有効利用として、９月下旬以降、それらの収穫が終了次第、ほうれんそうやこまつなの作付けが行われるようになった。そのため、こまつなを主体としている生産者はいない。出荷時期は春と秋が中心。
- 冬の作付けについては、年内出荷もあるが、年明けの１～２月から少しずつ出荷するものが多い。
- 元々はほうれんそうの作付けが多かった。しかし、土壌病害の問題で土壌消毒が必要となり、年々栽培が難しくなったことから、気軽に作れる品目としてこまつなの作付けが増加した。
- ほうれんそう・こまつな部会として、規格を統一して取り組んでいる。

冬の栽培に取り組んだ経過や考え方

【生産者】

- 冬場のこまつな作付けは、パートの通年雇用と外国人技能実習生の冬期の仕事を作ることを主目的としている。
- ねぎが経営の柱。ねぎのみだと連作障害が発生するため、輪作のために葉物を作付けしている。

消費者ニーズや販売先等

- ほとんどが道内市場出荷で、札幌が中心。一部、旭川や契約取引。販売先は、札幌近郊のスーパーマーケット等。
- ほうれんそうと比較すると、需要は明らかにほうれんそうの方が多いが、こまつなは学校給食にも使われるようになっており、需要は増加している。
- 産地としてロットが揃ってきたので、販売は安定してきている。北海道指定の需要がある。

その他

- 毎年輸送経費が上がっている。農協管内各地区の野菜を集めてトラック１台に混載するなどして輸送効率を上げ、運賃を抑制している。
- ３月下旬からの北海道産需要があるが、耐抽苔性品種がないことが課題。春作は、１～２月には種して、３～５月に出荷する生産者が多い。

問い合わせ先

新函館農業協同組合　生産販売部農産園芸課

〒041-1201 北斗市本町１丁目１番21号　TEL：0138-77-5558

リーフレタス・サニーレタス

新函館農業協同組合
北斗市野菜生産出荷組合レタス部会
【生産者事例：佐々木 弘光 氏（北斗市）】

産地や産品の特徴

- 新函館産は、株が大きく、ボリューム感が特徴。
- リーフレタス・サニーレタスの特徴：結球レタスよりもビタミンCやビタミンE、βカロテン、カルシウムが多く含まれている。シャキシャキとした食感が特徴で、サラダに適する。
- 個選共販。FG 包装。

耕種概要

- 経営形態：水稲＋露地・施設野菜
- ハウス面積（リーフ・サニーレタス）：間口 5.4m ×奥行 50m ×４棟
- 土質：灰色グライ低地土
- 施肥：N11.4、P3.2、K11.4kg/10a（土壌診断結果による施肥を実施）
  （地域慣行：N15、P12、K18kg/10a）
- 品種：リーフレタス：アーリーインパルス
  サニーレタス：ディープパープル他
- 畦幅、株間（10a 当たり株数）
  27cm × 27cm、８列・千鳥（13,717 株 /10a）
- 穴開きマルチ使用：ダークグリーン
- 前作：トマト（全 17 棟のうち４棟の後作にリーフ・サニーレタスを作付け）

収量や品質の目標

- 収量：2,700kg/10a
- 品質：品種固有の形状を有し、色沢良好なもの。
  変形、軟化、老化していないもの。抽台していないもの。

栽培カレンダー

リーフレタス・サニーレタス

月	8			9			10			11			12			1			2			3		
旬	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
作業					●……	▲								□……	□									

は種：●、定植：▲、収穫：□

ハウスの仕様

ハウス外観
天張り：農 PO（0.1mm）

ハウス内部
内張り・カーテン：なし

生育状況

リーフレタス
11 月下旬

サニーレタス
11 月下旬

リーフレタス
11 月下旬

サニーレタス
11 月下旬

病害虫対策

- 病害：軟腐病、すそ枯病
- 虫害：コナジラミ、ナメクジ
- 耕種的防除：ハウス両サイドの除草をしっかり行う。
- 化学的防除：すそ枯病、コナジラミ中心に薬剤防除。

栽培や作業のポイント

- ハウス内が０℃以下にならないよう管理を行う。サニーレタスは低温に遭遇させないと葉の赤色の発色が良くならない。
- 最低気温 -10℃が続くなど、しばれがきつい時には不織布のべたがけを行う。
- リーフレタスとサニーレタスを半々で作付け。サニーレタスは、定植～収穫までの日数が７～ 10 日長くかかるため、リーフレタス収穫終了後にサニーレタスを収穫する。人によっては、リーフレタスよりも早めには種することで同時期に収穫を行う。
- 地域では隣町の農業公社に苗生産を依頼している生産者が多いが、苗は自分で育苗しており、コスト低減になっている。
- トマト等の残渣片づけは農福連携の事業所に来てもらっている。パートにやってもらうとほかの作業を止めなければならないので、助かっている。

冬の栽培に取り組んだ経過や考え方

【産地】

- ７年ほど前から導入。きっかけは、トマトとねぎの後の冬の作物として、ほうれんそうやこまつな以外の作物を検討した結果、リーフレタス・サニーレタスを選定。試験栽培を行ったとき、府県産地の作柄が悪く、道産の価格がかなり良かったこともあり、生産者が急激に増加し、定着した。

【生産者】

- パートの労働意欲が高く、冬期の仕事を確保するため。
- トマトの後作として、ハウスの稼働率を上げるため。

消費者ニーズや販売先等

- JA を通じて函館、旭川、札幌市場へ出荷。
- 販売時期は、生育により変動するが例年11月中旬～1月。生育が順調だと終了が早まる。
- 前年の価格によって生産者の増減がある。
- 新函館産は府県産に比較して株が大きくボリュームがあるので、道内を中心にかなり重宝されている。
- クリスマスにはオードブル需要もあるので、生産者が増えて、その時期まで出荷していきたい。
- 市場からは、リーフレタス・サニーレタスの両方セットで出荷を求められるが、リーフよりもサニーの方が色づきや生育で収穫時期が遅れるので、対応が難しい。

出荷時の荷姿

その他

【生産者】

- ハウスの被覆は農 PO フィルム。３～４年で更新。夏場は高温なので、乱反射するフィルムに順次入れ替えている。令和５年はトマトの日焼けが多く出たので、令和６年は日焼け防止に塗布剤を散布。３～４℃温度は変わる。
- ハウス１棟だけ自動換気装置を導入。本来は全棟への導入が望ましいが、この１棟を目安にほかのハウスも管理している。

問い合わせ先

新函館農業協同組合　北斗営農センター生産施設課

〒041-1201 北斗市本町１丁目１番21号　TEL：0138-77-7772

ちぢみほうれんそう（寒締め）
ケール（ボーレコール）

（株）MORIYA（旭川市）

産地や産品の特徴

- 寒締めほうれんそう：糖度は約 10 度にも。生食 OK。個選共販（JA 東旭川）。FG 包装。
- ケール：寒さに当たり甘く育つ。全く苦み無し。

耕種概要

【共通】

- 土質：褐色低地土
- 育苗：ペーパーポット（406 穴）
- 穴開きマルチ使用（透明）
- 前作：ミニトマトまたは大玉トマト

【ちぢみほうれんそう（寒締め）】

- ハウス面積：間口 6.3m ×奥行 85m × 4 棟、間口 6m × 30m × 2 棟
- 施肥：NS248　80kg/10a（N9.6、P3.2、K6.4kg/10a）
- 品種：冬霧 7
- 畦幅、株間（10a 当たり株数）：15cm × 15cm（44,444 株 /10a）

【ケール】

- ハウス面積：間口 6.0m × 30m × 2 棟
- 施肥：NS248　80kg/10a（N9.6、P3.2、K6.4kg/10a）
- 品種：ウインターボー他
- 畦幅、株間（10a 当たり株数）
  60cm × 60cm 及び 30cm × 30cm（2,777、11,111 株 /10a）

収量や品質の目標

【ちぢみほうれんそう（寒締め）】

- 12 月下旬～ 2 月に約 3,500kg（約 1,500kg/10a）

【共通】

- 葉を肉厚にし、強烈な寒さの影響による傷みを極力減らす。

栽培カレンダー

ちぢみほうれんそう（寒締め）

月	8			9			10			11			12			1			2			3		
旬	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
作業				●……▲									□……□											

は種：●、定植：▲、収穫：□

ケール（ボーレコール）

月	8			9			10			11			12			1			2			3		
旬	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
作業				●……▲									□……□											

は種：●、定植：▲、収穫：□

ハウスの仕様

ハウス外観
天張り:農 PO･UV カットフィルム(0.1mm)

内張 1 重、天張り支柱
カーテン：農 PO（0.1mm）

生育状況

ちぢみほうれんそう（寒締め）
11 月下旬

ケール
11 月下旬

病害虫対策

- 病害：特になし
- 虫害：アブラムシ類、コナダニ類、ヨトウガ、ナメクジ
- 鳥獣害：野ソ
- 耕種的防除：雑草防除
- 化学的防除
  寒締めほうれんそう：栽培期間中農薬不使用（出荷者で協議し実施）
  ケール：アブラナ科であり、コナガ等の対策に薬剤防除を実施

栽培や作業のポイント

【共通】

- は種はペーパーポット（406 穴）を使用し、発芽を安定化。

【ちぢみほうれんそう（寒締め）】

- 穴あきマルチを使用することで、葉の裏が土で汚れるのを防いでいる。手間はかかるが、汚れを取って FG に入れる作業を含めるとトータルでは効率的。
- 成長し大きくなる時期が限られているので、定植時期を適期に合わせ、適度な大きさに育てることが重要。
- 保温は、内張カーテンのほか、12 月中～下旬に不織布をべたがけする。1 月以降も収穫する場合は、さらにもう 1 枚べた掛けする。寒さによる傷みや土のしばれを緩和し、朝の作業効率が上がる。また、厳寒時には、ジェットヒーターも使用することがある。

【ケール】

- 栽培年数が少なく、ニーズ（外食用や小売り用など）に合わせた栽培方法の検討が必要である。
- ちぢみほうれんそう（寒締め）同様に不織布をべた掛けし、1 月以降はさらにもう 1 枚べた掛けする。

冬の栽培に取り組んだ経過や考え方

- 12 ヶ月を農業経営と考え、寒さや積雪など旭川の冬の特性を活かした栽培スケジュールを立てている。また、従業員の仕事の確保や、農業技術の向上のためにも冬期間の栽培に取り組んでいる。
- また、農家の協議会などの役職が増えており、冬期間に農外の仕事をするのではなく、時間の自由が利く農業をそのまま続けるのが良いと考えた。